

産科医療

〜経過と今までの主な取り組み〜

秩父市では現在も、産科医療の維持・充実に向けた取り組みが続けていますが、全国的な産科医師・産科医療スタッフ不足により、秩父地域でも産科医療が大変厳しい状況であります。

現在、妊産婦を受け入れている産婦人科診療所をはじめ、秩父郡市医師会や埼玉医科大学関連病院、近郊の産科医療機関等のご支援・ご協力により維持できている状況です。

これにより、秩父地域内の産婦人科診療所では、地域内住民で通常分娩の希望者はおおむね受け入れを行い、里帰り出産も空き状況により受け入れを行っていただいています。

また、市民の皆さんから親戚や知人等の産科医師情報を提供いただいたことで、関係者と会談することもできました。引き続き、情報がございましたら提供いただき、ますようお願いいたします。

秩父地域の産科医療や救急医療等、大変厳しい状況ではありますが、市民の皆さんのご協力をいただき、これからも「あきらめず粘り強く」取り組んでまいります。

問 地域医療対策課 ☎ 22-2279

●今までの経過

とき	状 況
平成24年2月	秩父郡市内の産婦人科診療所が3診療所から2診療所になる。
平成24年8月	秩父郡市5首長、秩父郡市医師会長、秩父産婦人科医会長、市内2産婦人科診療所長、郡市内2公立病院長の連名で「秩父地域の産科医療確保に係わる要望書」を埼玉県知事に提出。
平成24年10月	埼玉医科大学病院から市内産婦人科2診療所のうち1診療所に月2回、当直日勤の産科医師派遣を開始。
平成24年12月	秩父近郊の深谷・熊谷・本庄・小川・飯能など18産科医療機関に対し、秩父郡市5首長連名で『秩父地域の妊産婦受入のお願い』文書と地域医療対策課名で『緊急時における救急車利用』の周知依頼文書を送付。
平成25年1月	秩父郡市内の産婦人科診療所が2診療所から1診療所になる。埼玉医科大学総合医療センターから市内産婦人科診療所に週1回、当直日勤の産科医師派遣を開始。
平成25年4月	埼玉医科大学病院から週1回、埼玉医科大学総合医療センターから週2回、市内産婦人科診療所への当直日勤の産科医師派遣を強化。
平成25年7月	市内産婦人科診療所が12床から15床に増床し、妊産婦受け入れの充実を図る。

●久喜市長の動き

とき	状 況
平成24年4月～平成25年3月	久喜市長が、埼玉医科大学理事長、山王病院院長、日本医科大学産婦人科主任教授とそれぞれ会談。
平成25年4月～平成26年3月	久喜市長が愛育病院副院長兼産婦人科部長、都立墨東病院産婦人科医長、自治医科大学附属さいたま医療センターセンター長・同周産期母子医療センター長、埼玉医科大学理事長とそれぞれ会談。
平成26年4月～現在	久喜市長が埼玉医科大学名誉理事長（5回）・理事長（2回）と会談。



「空き家等の適正管理に関する協定」を締結しました



9月2日、秩父市と秩父市シルバー人材センターで「空き家等の適正管理に関する協定」を締結しました。この協定は、秩父市シルバー人材センターと相互に連携・協力し、空き家等の所有者による適正管理を促進するもので、空き家が放置されることを防止し、安全で安心なまちづくりの推進に寄与することを目的としています。

秩父市シルバー人材センターは空き家管理について次のことを行います。

- ①見回り、②除草、③樹木の伐採、枝下ろし、④植木の剪定、⑤小修繕、⑥その他、所有者等の要望があれば空き家等の管理全般を実施する

詳しくは☎（秩父市シルバー人材センターで検索）、または☎でお問い合わせください。

問 秩父市シルバー人材センター ☎ 22-4454
市役所危機管理課 ☎ 22-2206